



# 車を運転するにあたって

車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の使いかた、運転の方法について説明しています。

## ■ メーターのはたらき

メーター-----	106
-----------	-----

## ■ 表示灯、警告灯のはたらき

表示灯-----	110
警告灯-----	112

## ■ スイッチの使いかた

スイッチの名称-----	118
ライティング スイッチ -----	119
光軸調整ダイヤル-----	121
方向指示レバー-----	122
非常点滅灯スイッチ-----	122
ワイパー・ウォッシャー スイッチ----	123
リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチ-----	125
フォグ ランプ スイッチ -----	125
ホーン スイッチ-----	126

## ■ 運転装置の使いかた

エンジン スイッチ-----	127
駐車ブレーキ-----	128
ターボ車-----	129
AWD車-----	129

## ■ エンジンのかけかた

オートマチック車-----	131
---------------	-----

## ■ オートマチック車の運転

オートマチック トランスミッション ----	133
セレクト レバーの操作-----	135
運転のしかた-----	138

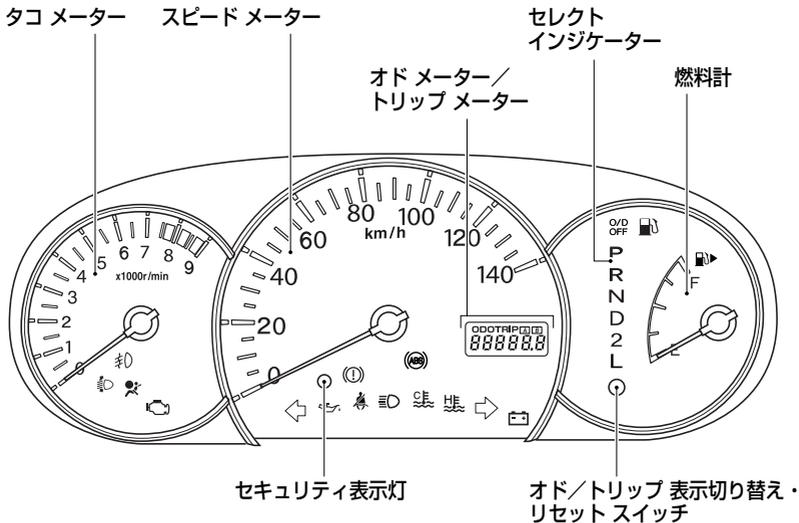


# メーターのはたらき

## メーター

ルミネセント メーターを除く

グレードの違い、オプションも含まれています。



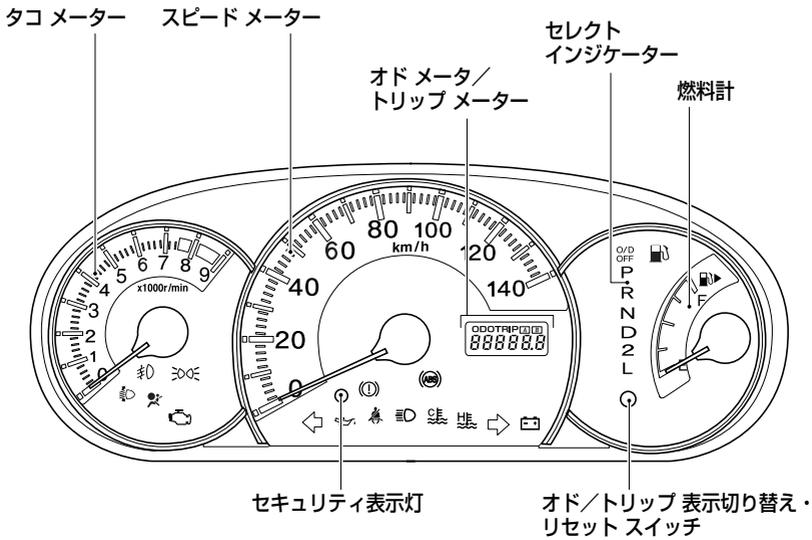
### ○メーター照明

車幅灯に連動して点灯・消灯をします。



ルミネセント メーター

グレードの違い、オプションも含まれています。



○メーター照明

- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、車幅灯の点灯・消灯に関わらず点灯します。
- メーター照明が点灯しているときに、車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

アドバイス

- ライトの点灯・消灯の確認は、ライティング スイッチ表示灯で行ってください。  
(ライティング スイッチ表示灯→ 110 ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

(照度調整→ 108 ページ)



## 車を運転するにあたって メーターのはたらき

### スピード メーター

走行速度をkm/h で示します。

### オド メーター／ トリップ メーター

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、表示されます。

#### ○オド メーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

#### ○トリップ メーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

トリップ メーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。

#### ○オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチ

▼表示を切り替えるには

スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



\*ルミネセントメーターで、車幅灯が点灯しているときに表示されます。

▼トリップメーター表示をリセットするには  
リセットするトリップメーター（AまたはB）を表示させ、スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

### 照度調整

#### ルミネセントメーター

照度調整表示中、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを約1秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい ↑ ↓ 暗い	.....	レベル1
	....	レベル2
	..	レベル3
	.	レベル4

### アドバイス

- エンジン スイッチが“ON”の位置で、車幅灯が点灯しているときのみ、照度調整を表示させることができます。
- “レベル1”に設定すると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。



## 燃料計

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、燃料残量を表示します。

燃料残量が約 7.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

(燃料残量警告灯→ 115 ページ)

### ⚠注意

指針が“E”に近付いたり、燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を補給してください。  
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

## タコメーター

1分間当たりのエンジン回転数を示します。

### ⚠注意

- 指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。



## 表示灯、警告灯のはたらき

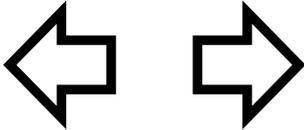
### 表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

#### ⚠注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。  
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

### 方向指示器表示灯



#### ○方向指示器表示灯

エンジン スイッチが“ON”の位置で、方向指示灯を点滅させると、同時に点滅します。

#### ○非常点滅表示灯

エンジン スイッチの位置に関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に点滅します。

#### 👉アドバイス

##### 点滅時間が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

### ハイビーム/パッシング表示灯



エンジン スイッチの位置に関係なく、ヘッド ランプを上向きの状態にすると点灯します。

### フォグ ランプ表示灯

オプション/グレード別装備



エンジン スイッチの位置に関係なく、フォグ ランプを点灯させると点灯します。  
(フォグ ランプ スイッチ  
→ 125 ページ)

### ライティング スイッチ表示灯

ルミネセント メーター



エンジン スイッチの位置に関係なく、車幅灯が点灯しているときに点灯します。



## 水温表示灯



エンジン スイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が低いときに点灯します。

### ⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

### 👉アドバイス

- エンジン冷却水温が異常に高くなったときは、水温警告灯が点滅します。

(水温警告灯→ 114 ページ)

**暖機を十分続けていても、点灯したままの場合**

- 水温センサー等の異常が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

## セキュリティ表示灯

(盗難警報装置→ 72 ページ)

## セレクト インジケーター

P  
R  
N  
D  
2  
L

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき作動します。使用中のセレクト レバーの位置が点灯します。

## O/D OFF表示灯

O/D  
OFF

エンジン スイッチが“ON”の位置で、オーバー ドライブを“OFF”の状態にすると点灯します。

(オーバー ドライブ スイッチ  
→ 137 ページ)



## 車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

### 警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

#### ⚠️注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。

### エンジン警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯します。

#### ⚠️注意

##### 点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

### オイル プレッシャー警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力に異常があると点灯します。

#### ⚠️注意

##### 点灯した場合

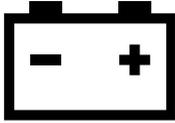
- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。ただちにスバル販売店にご連絡ください。

#### 📖アドバイス

- オイル プレッシャー警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）



### チャージ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

#### ⚠注意

##### 点灯した場合

- ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

### ブレーキ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動して、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記の場合に点灯します。

#### ▼点灯理由

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき

#### ▼駐車ブレーキが解除されている場合

エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

#### ○警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。



## 車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

### △注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにスバル販売店で点検を受けてください。

#### エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

#### ABS警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

### 水温警告灯



- エンジンスイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が異常に高くなると点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

### アドバイス

#### 点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

(オーバーヒートの処置  
→ 186 ページ)



## シート ベルト 警告灯

運転席



- エンジン スイッチが“ON”の位置で、運転席側シート ベルトを装着していないと点滅します。
- シート ベルトを着用すると消灯します。

### ○警告ブザー

シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

### アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシート ベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の早さが変わります。

## 燃料残量警告灯



エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、燃料残量が約 7.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

(燃料計→ 109 ページ)

### 注意

#### 点灯した場合

- ただちに燃料を補給してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

### アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。



## 車を運転するにあたって 表示灯、警告灯のはたらき

### ABS警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、ABSに異常があると点灯します。

#### ⚠注意

##### ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。  
ただちに安全な場所に停車して、スバル販売店にご連絡ください。

#### アドバイス

- エンジン始動後に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、スバル販売店で点検を受けてください。

##### 点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、スバル販売店で点検を受けてください。

### SRSエアバッグ警告灯



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記のシステムに異常があると点灯します。

#### ▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ  
(SRSエアバッグ→ 57 ページ)
- プリテンショナー機構  
(プリテンショナー機構→ 54 ページ)

#### ⚠注意

##### 点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



## オート レベライザー警告灯

HIDランプ装着車



- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、ロービームのオートレベリング機能に異常があると点灯します。  
(ロービーム・オートレベリング機能  
→ 120 ページ)

### ⚠注意

#### 走行中に点灯した場合

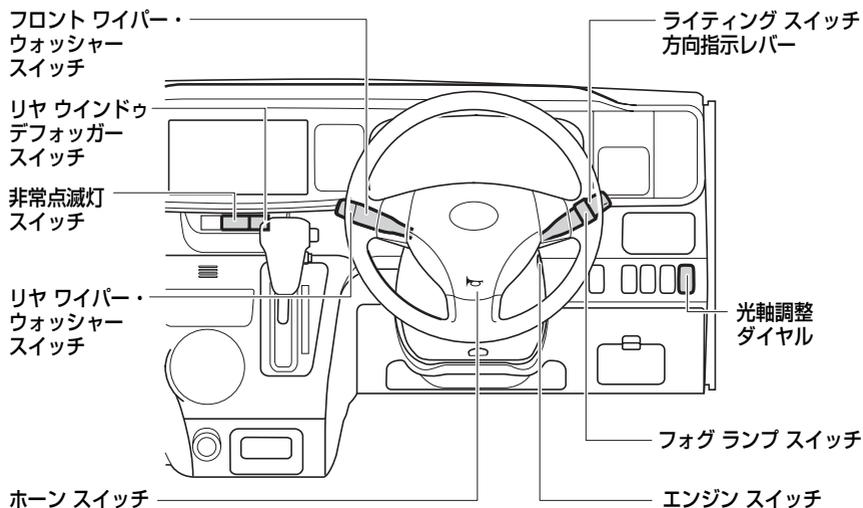
- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。  
再度エンジン スイッチを“ON”の位置にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。  
消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにスバル販売店で点検を受けてください。



# スイッチの使いかた

## スイッチの名称

グレードの違い、オプションも含まれています。



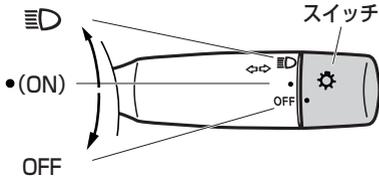


## ライティング スイッチ

### ライトの点灯

#### ▼操作方法

スイッチを回すと、下表のライト類が点灯します。



ライト	前照灯	車幅灯・番号灯・尾灯・計器照明灯
スイッチ位置		
OFF	—	—
● (ON)	—	点灯
≡D	点灯	点灯

#### ⚠注意

- エンジンを停止した状態で長時間ライト類を点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

### ライトの消灯

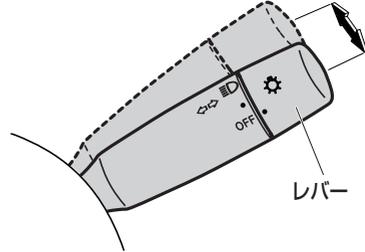
#### ▼操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

## ヘッドランプの切り替え

#### ▼操作方法

ライティング スイッチが“≡D”の位置のときレバーを押すと、前照灯が上向き（ハイビーム）になり、戻ると下向き（ロービーム）になります。



#### ⚠注意

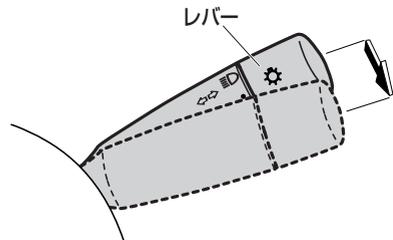
- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

#### ▼一時的に使用する場合

#### 📖アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。





## 車を運転するにあたって スイッチの使いかた

### ライト消し忘れ警告ブザー

ライトを点灯したままで、エンジン スイッチからキーを抜き、いずれかのドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

### HIDランプ

#### オプション/グレード別装備

HIDランプは、ランプ管内のガスと金属ヨウ化物物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

#### ⚠警告

- HIDランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。HIDランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電するおそれがあり危険です。  
ランプを交換・修理・破棄するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

### 📖 アドバイス

- HIDランプが点滅を繰り返すようになると電球の寿命が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。
- 衝突などでランプ周りに衝撃を受けた場合は点灯装置も衝撃を受け正常に作動しなくなっているおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。
- システムの異常により電圧がHIDランプの作動電圧範囲から外れたときは、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
- 点灯中に作動電圧範囲から外れたときは消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
- 点灯操作をするときに作動電圧範囲から外れているときは、ライティングスイッチを操作しても点灯しません。

### ○ロー ビーム・オート レベリング機能

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する装置です。

### 📖 アドバイス

- エンジンを始動して、初めてヘッドランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、異常ではありません。
- ヘッドランプの光軸に異常を感じたときは、スバル販売店で点検を受けてください。



## 光軸調整ダイヤル

### ハロゲン ヘッド ランプ装着車

ヘッド ランプが点灯しているときに使用  
できます。

乗員数や積載量によって車両の姿勢が変  
化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす  
方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回  
すことで光軸を下向きに調整すること  
ができます。

通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上  
向きの位置）で使用します。

### 👉 アドバイス

#### HIDランプ装着車

- ヘッド ランプの光軸は自動的に調整  
されるため、光軸調整ダイヤルは装着  
されていません。

### ▼ 操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプ  
の光軸が上下に変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど下向きにな  
ります。



### 👉 アドバイス

- 乗員数などに応じて、下表を目安にダ  
イヤルを調整してください。

乗車や荷室の 積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
4名乗車時	0.5
4名乗車で荷室満載時	1
運転席のみ乗車で 荷室満載時	1.5

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤ  
ルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、  
ダイヤルを“0”にしてから行ってく  
ださい。



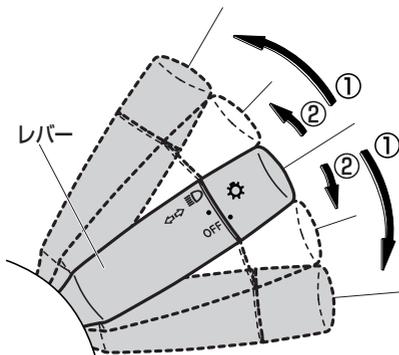


## 車を運転するにあたって スイッチの使いかた

### 方向指示レバー

#### ▼操作方法

レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。車線変更などのときには、レバーを②の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。



#### 👉アドバイス

- ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。
- 点滅が異常に早くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

### 非常点滅灯スイッチ

#### ▼操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。



#### ⚠️注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。



## ワイパー・ウォッシャー スイッチ

### △注意

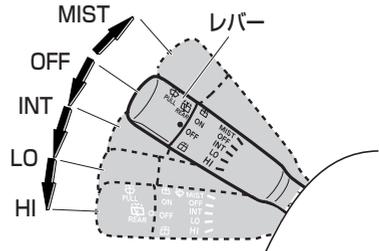
- 空ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパーモーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパーモーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

## フロント

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”の位置のとき使用できます。

### ○ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。



MIST	一時作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

### 🔧 アドバイス

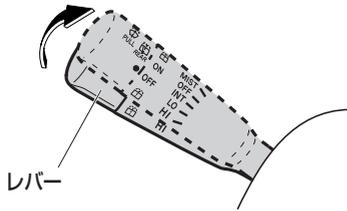
- MIST（一時作動）はレバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと“OFF”に戻ります。
- ワイパーは、雪がたまったときにワイパーの反転位置を切り替える機構になっています。この機構の作動中に「コン、コン」という音が発生しますが、異常ではありません。



## 車を運転するにあたって スイッチの使いかた

### ○ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



### アドバイス

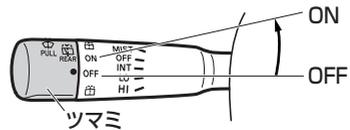
- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

## リヤ

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”の位置のとき使用できます。

### ○ワイパーの使いかた

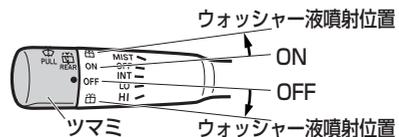
つまみを“ON”の位置に回すと、リヤワイパーが作動します。



### ○ウォッシャー液の噴射

リヤ ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、つまみを“ON”の位置から上側の“ウォッシャー液噴射位置”に回します。

また、つまみを“OFF”の位置から下側の“ウォッシャー液噴射位置”に回しても噴射します。



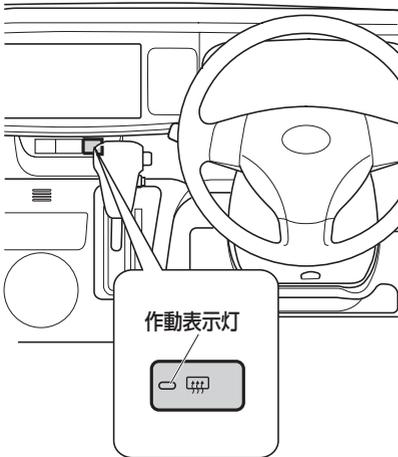


## リヤ ウィンドウ デフォッガー スイッチ

リヤ ウィンドウ ガラスの曇りを取る  
ときに使います。

### ▼操作方法

スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、  
リヤ ウィンドウ ガラスが暖められ曇り  
が取れます。作動を停止するときは、ス  
イッチをもう一度押してください。作動  
表示灯も消灯します。



## フォグ ランプ スイッチ

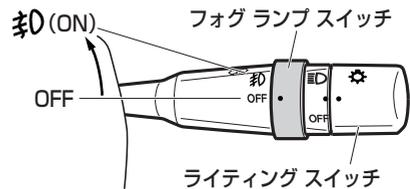
オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利  
用ください。

### ▼操作方法

車幅灯が点灯しているとき、スイッチを  
“ON” にすると、メーター内のフォグ  
ランプ表示灯が点灯し、フォグ ランプが  
点灯します。

消灯するときは、スイッチを“OFF” に  
してください。フォグ ランプ表示灯も消  
灯します。



## 👉 アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用し  
ないでください。バッテリーあがりの  
原因になります。
- リヤ ウィンドウ ガラス内面を清掃す  
るときは、電熱線を傷付けないでく  
ださい。



## 車を運転するにあたって スイッチの使いかた

---

### ホーン スイッチ

ハンドルのマーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。



#### アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。



# 運転装置の使いかた

## エンジン スイッチ

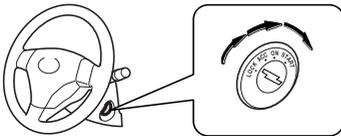
### ⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンをかけるときやオーディオを聞くときなどに使用します。

### ⚠注意

- エンジンを止めた状態で、キーを“ON”または“ACC”の位置にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。



LOCK	キーを抜き差しする位置です。キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	エンジンを止めたまま、オーディオが聞ける位置です。
ON	エンジン回転中の位置です。
START	エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

### ⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。

### 👉アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。
- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

## キー インター ロック

誤操作防止のため、セレクト レバーがPレンジ以外有的时候に、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

### ▼操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、セレクト レバーをPレンジにしてから行います。

### ⚠注意

- Pレンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。





## 駐車ブレーキ

### △注意

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。

駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

### ▼かけるとき

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込みます。
- エンジンスイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

### ▼解除するとき

- 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキングペダルをゆっくり戻します。
- エンジンスイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。



### △注意

- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキングペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

### 🗨️アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。  
(ブレーキ警告灯→ 113 ページ)

## 坂道に駐車するとき

### ▼操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、セレクトレバーをRレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。



## ターボ車

### △注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているときは、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください）。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング状態にしてからエンジンを止めてください。

運転状態	アイドリング時間
一般走行後	—
高速走行後、登坂走行後	約1分

## AWD車

オプション/グレード別装備

### △注意

- AWD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。  
また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- AWD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

## フル タイムAWDシステム

### 👉 アドバイス

- フル タイムAWDシステムは、FWDとAWDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。またAWD表示灯もありません。



## 車を運転するにあたって 運転装置の使いかた

### AWD車のタイヤ交換

AWD車は4つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

#### ⚠注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

#### 👉アドバイス

- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に1回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。）
- タイヤのローテーションは5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤチェーンは必ず後輪に装着してください。



# エンジンのかけかた

## オートマチック車

### エンジン始動の準備

#### ▼操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーが回レンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。



### エンジンをかけるとき

#### ▼操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかり踏みます。
2. アクセル ペダルを踏まずにエンジンスイッチを“START”の位置まで回します。

#### ⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

#### 👉アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチを連続して10秒以上“START”の位置にしないでください。
- エンジンの始動性を良くするためにライト、リヤ ウィンドウ デフォグガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- 外気温が $-20^{\circ}\text{C}$ 以下のとき、エンジンスイッチを“START”の位置にしてからエンジンを始動させるまでの時間が長くなります。確実に始動させるには、かかったと思っても、さらに3秒程度、手を離さず“START”の位置で保持してください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）



## アドバイス

- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドル回転に下がります。
- 2～3回始動操作を繰り返しても始動しないときは、アクセルペダルをいっぱい踏み込んだまま再始動してください。それでも始動しないときは、しばらく時間を置いてからもう一度始動操作をしてください。

## ○スターターコントロールシステム

スターターコントロールシステムはエンジン寒冷時の始動操作を補助するシステムです。

エンジン冷却水温が 15℃以下のとき、エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジンスイッチを“START”の位置で保持する必要はありません。

## アドバイス

- スターターコントロールシステム作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターコントロールシステム作動中に始動操作を中断することがあります。
- エンジン冷却水温が 15℃以上のときは、スターターを回す時間は延長されません。
- 外気温が 15℃以下でも、エンジン冷却水温が 15℃以上のときは、スターターを回す時間が延長されませんので、エンジンが始動するまで、エンジンスイッチを“START”の位置で保持してください。

## エンジンを止めるとき

### ▼操作方法

エンジンを止めるときは、アイドル回転にしてからエンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

### ⚠注意

- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドル回転を 1 分程度行ってください。



# オートマチック車の運転

## オートマチック トランスミッション

オートマチック車は、ギヤチェンジやクラッチペダルの操作から解放され、運転は大変楽になりますが、いくつかの特性があります。オートマチック車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

### オートマチック車の特性

#### ○クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、Nレンジ以外の位置で、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

#### 👉 アドバイス

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がリ（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

#### ○キックダウン

走行中にアクセルペダルを踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して強く加速させることができます。これをキックダウンといいます。

#### ⚠️注意

- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセルペダルの操作はさけてください。車がスリップするおそれがあります。

#### 👉 アドバイス

- 追い越しなど強い加速が必要とするときや、高速道路での合流が楽に行えます。



## 車を運転するにあたって オートマチック車の運転

### セレクト レバー

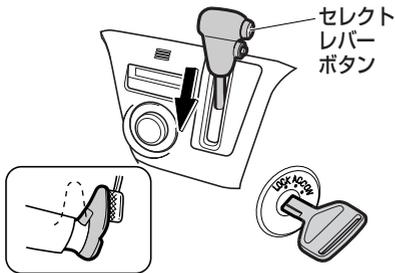
セレクト レバーの操作は確実に行ってください。

#### ○シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

#### ▼シフト ロック解除方法

シフト ロックを解除する場合は、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にし、ブレーキ ペダルを踏むとセレクト レバーの操作ができます。



### アドバイス

- セレクト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでない、Pレンジからほかのレンジへは動きません。
- エンジン スイッチが“LOCK”の位置では、ブレーキ ペダルを踏んでもセレクト レバーはPレンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にセレクト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、セレクト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。

### 各シフト位置での上限速度

#### ⚠注意

- エンジンの回転があがりすぎないように、上限速度を守って走行してください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- 特にシフト ダウンを行うときは、上限速度を超えることのないように十分速度を落としてください。

各シフト位置での上限速度は下表を参考にしてください。

シフト位置	L	2	D	
			O/D OFF	O/D ON
4A/T	40	70	110	—

(km/h)



## セレクト レバーの操作

### インパネ センター シフト式 4速オートマチック トランスミッション

セレクト レバー部には、セレクト レバーを動かすときに使用するセレクト レバー ボタンが装着されています。



▼ 操作をする前に

### ⚠ 警告

- PレンジからRレンジへセレクト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、セレクト レバー ボタンを押して動かしてください。

## ○ 各位置のはたらき

Pレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Rレンジ	車を後退させるときの位置 (車が完全に止まってから入れてください)
Nレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Dレンジ	通常の走行をする位置 [前進] (1速から4速*まで自動的に変速されます)
2レンジ	下り坂走行するときの位置 [前進] (エンジン ブレーキが必要なときの位置)
Lレンジ	急な下り坂走行するときの位置 [前進] (強いエンジン ブレーキが必要なときの位置)

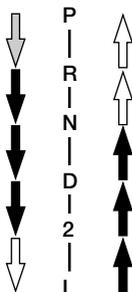
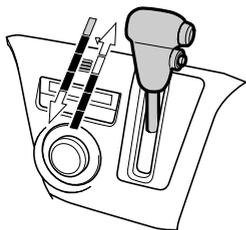
\* オーバー ドライブがOFFのときは3速





## 車を運転するにあたって オートマチック車の運転

### ○セレクト レバーの動かしかた



↓ ブレーキペダルを踏みながら  
セレクトレバー ボタンを押し  
て動かします。

↑ ↓ セレクトレバー ボタンを押し  
て動かします。

↑ ↓ そのまま動かします。

### ⚠警告

- ➡ の操作は誤作動を防ぐため、セレクトレバー ボタンを押さずに動かしてください。常にセレクトレバー ボタンを押して操作していると、P・R・Lレンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちにPレンジに入れしないでください。また、走行中にNレンジ、前進走行中にRレンジ、および後退走行中にD・2・Lレンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあります。

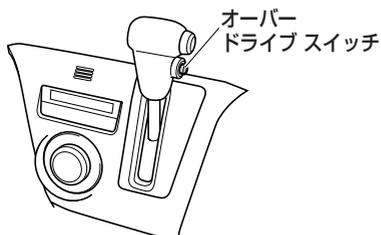


### ○オーバー ドライブ スイッチ

通常走行時はスイッチを押して“ON”の状態にしておいてください。4速オートマチック トランスミッションとしてはたつき、燃費性能と静粛性を高めます。

オーバー ドライブ スイッチをもう一度押して“OFF”の状態にすると3速オートマチック トランスミッションとしてはたきます。この場合は、メーター内のO/D OFF表示灯が点灯します。

4速オートマチック トランスミッションに戻すときは、スイッチを“ON”の状態にしてください。



	ON	4速オートマチック
	OFF	3速オートマチック

### 👉 アドバイス

- 長い坂道を走行するときは、オーバードライブ スイッチを押して“OFF”の状態にしてください。  
下り坂ではエンジン ブレーキの効きが良くなり、上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。





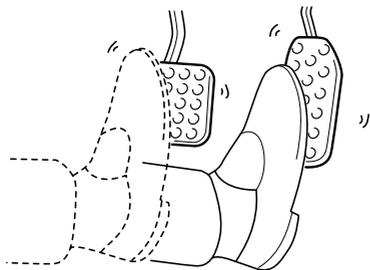
## 車を運転するにあたって オートマチック車の運転

### 運転のしかた

#### エンジン始動前

##### ▼操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。



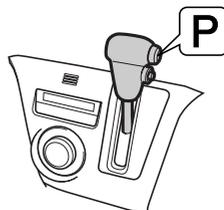
#### ⚠注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

### エンジン始動時

##### ▼操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクト レバーがPレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. アクセル ペダルを踏まずにエンジンスイッチを“START”の位置にします。



#### ⚠注意

- アクセル ペダルを踏みながらエンジンを始動する必要がある場合は、必ずPレンジになっていることを確認してください。



## 発進時

▼操作を行う前に

### ⚠警告

- PレンジからRレンジへセレクトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーボタンを押して動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼操作手順

1. ブレーキペダルを右足で踏んだままセレクトレバーを前進であればDレンジに、状況に応じて2、Lレンジに、また後退のときはRレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

### ⚠注意

- セレクトレバーがどの位置にあるかをセレクトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- セレクトレバーがP、Nレンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。(クリープ現象)
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり(アイドルアップ)、動こうとする力が強くなります。発進時にセレクトレバー操作をするときはしっかりとブレーキを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。  
トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにPレンジからRレンジ、NレンジからDレンジ、NレンジからRレンジにセレクトレバー操作をするときもブレーキをしっかりと踏んでから行ってください。
- 坂道発進時などアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。





## 車を運転するにあたって オートマチック車の運転

### アドバイス

- セレクト レバーを[R]レンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーが[R]レンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんので注意してください。

#### ▼坂道発進をする場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、セレクト レバーを[R]レンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。

### 走行時

#### ▼操作手順

1. 通常は[R]レンジで走行します。
2. 強い加速が必要な場合は、アクセルペダルを踏み込むとギヤは自動的に低速ギヤに切り替わります。(キックダウン)
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じて[D]または[L]レンジに切り替えます。

#### 警告

- 坂道などでは、セレクト レバーを[D]、[D]または[L]レンジに入れたまま惰性で後退したり、[R]レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。  
エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。



### ⚠️注意

- 走行中は④レンジに入れしないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中に②レンジ、また前進走行中に④レンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 上り坂などでスピードを保つために、アクセル ペダルを踏み込んでいくと、意に反してキック ダウンし、急にエンジン回転数が高くなる場合がありますので、急激なアクセル ペダルの操作はしないでください。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。キック ダウンにより回転が高くなり急加速をするため、スリップをしたり、カーブを曲がりきれずに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 各レンジでの速度は、必ず上限速度を守ってください。  
(各シフト位置での上限速度  
→ 134 ページ)
- 長い下り坂や急な下り坂を④レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。  
このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。  
シフト ダウンしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、④レンジに入れてください。

### ⚠️注意

- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

### 👉アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- 上り坂でスピードを保つためにアクセル ペダルを踏み込んでいくと、意に反してキック ダウンし、急にエンジン回転数上がることがあります。  
このようなときは、あらかじめ②レンジにしておくと、エンジン回転数の変化が少なく、なめらかな走行ができます。





## 車を運転するにあたって オートマチック車の運転

### 一時停止時

#### ▼ 操作手順

1. セレクト レバーは走行位置のままです。ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをNレンジに入れます。
3. 発進するときは、セレクト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

#### ⚠ 注意

- 上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

### 後退時

#### ▼ 操作方法

車が完全に止まってからも、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続け、セレクト レバーをRレンジに入れます。

#### ⚠ 注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
- 少し後退したあとなどはRレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあととはすぐNレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでDレンジからRレンジ、RレンジからDレンジと何度もセレクト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

#### 👉 アドバイス

- セレクト レバーをRレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にセレクト レバーがRレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんがご注意ください。



## 駐車時

### ▼ 操作手順

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車  
ブレーキをかけ、セレクト レバーを  
Pレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位  
置まで回してキーを抜きます。

### ⚠注意

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジン スイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。バッテリーあがりの原因となります。
- Pレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずPレンジにあることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにPレンジに入れないでください。トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。
- キー インター ロック装置により、セレクト レバーがPレンジ以外の場合は、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回すことができません。  
(キー インター ロック→ 127 ページ)

# MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.